



体験と実感を通して ～福島を訪れて～

校長 鈴木 康史

この夏は、ここ数年に比べると過ごしやすい日もございましたが、各地で地震や台風、集中豪雨などによる災害が相次ぎ、不安な思いをされたご家庭もあったのではないのでしょうか。そうした夏休みを終え、こうして再び元気な子どもたちを迎え、一緒に学校生活を送れることを大変嬉しく思っております。

この夏、私は福島県を訪れました。2011年の東日本大震災から15年が経っていますので、今の小中学生にとっては生まれる前の出来事となりました。私は毎年5年生を対象に、過去の原因事故や風評被害、放射線についての特別授業を行っていますが、今回は7年ぶり、2回目となる福島第一原子力発電所の中への視察を行ってまいりました。現地を訪れて感じたのは、「着実に進んでいる部分」と「今なお止まったままの部分」の双方があるということです。地域の除染が進み、避難指示が解除されて立ち入れるエリアが増えた一方で、森林部や細い道路の先は未だにゲートで閉鎖され、手をつけることすらできない場所が残っています。また、生活の基盤となる仕事の有無によって、人が戻りつつある地域と、戻れる環境が整っても人が戻らない地域がある現実も目の当たりにしました。除染能力が向上している一方で、エネルギー問題や安全性の課題、そして「燃料デブリ」を取り出す技術が未だ確立されていない現状を思うと、本当の復興への道のりの長さを痛感させられます。

振り返れば、東日本大震災も、そして発生から6年が経ち今の低学年が生まれた頃に重なるコロナ禍も、私たちから「他者と直接関わる機会」を奪いました。さらに、震災当時と比べてインターネットやAI技術が飛躍的に進化し、便利な世の中になりました。しかし、画面越しに知識を得やすくなった今だからこそ、奪われがちだった「直接体験すること」「肌で実感すること」、そして「自分自身の頭でじっくり考えること」の価値がより一層高まっています。学校という場は、友達や教員と直接関わり合い、共に体験し、実感を得ながら学びを深められる貴重な空間です。実りの秋を迎えるこれからの季節、本校では子どもたちが知識を得るだけでなく、実体験を通して自ら考え、たくましく成長していけるような教育活動を推進してまいります。

Ethics of technology
テクノロジーを倫理的に
責任をもって使う

既存の、また将来のテクノロジーを倫理的に、かつ責任をもって利用することを通じて、コミュニティ、地域、国家、地域圏、そしてグローバルレベルでの問題解決に積極的に関わろう。個々人が力量をつけるとともに、意欲を高め、エンパワーし、支援する。

ユネスコ
クール14
の指導目標
より

◆9月8日は、国際識字デー 識字は基本的人権、幅広い知識、技能、態度を身に付けるための基盤です

12日は国際平和デー 平和で持続可能な世界を構築するために、世界の連帯がもたらす力を称えます ◆